

TWENTY GOOD REASONS *Not* to worry about polar bears: an update

# ホッキョクグマはだいじょうぶ

心配しなくていい20の理由 (更新版)

Susan J. Crockford

スーザン・J・クロックフォード

健康的すぎるってどういう意味よ～



肥えたクマは気候問題ファッションのお気に召しません



**TWENTY GOOD REASONS *Not* to worry about polar bears: an update**

ホッキョクグマはだいじょうぶ  
心配しなくていい20の理由 (更新版)

Susan J. Crockford

スーザン・J・クロックフォード

(翻訳: 山形浩生)



## 著者について

スーザン・クロックフォード博士は進化生物学者。古動物学、捜査動物学の分野で 35 年の経験を持つ。ブリティッシュコロンビアのヴィクトリア大学における附属教授だったが、共同所有の民間コンサルティング会社(Pacific Identifications, Inc.) でフルタイムで勤務。著書に『生命のリズム：甲状腺ホルモンと種の起源』『喰われる』（シロクマに襲われるスリラー小説）、『ホッキョクグマ：事実と迷信』（七歳以上向け、フランス語とドイツ語の翻訳あり）、『ホッキョクグマのおおきなあし』（未就学児向け）、参考文献完備の『ホッキョクグマ：気候変動の驚くべき生き残り』、さらにホッキョクグマ保全状況に関する科学論文。これまでも GWPF 向けに、ホッキョクグマとセイウチに関する概要説明とビデオを製作した。スーザン・クロックフォード博士のブログは [www.polarbearsience.com](http://www.polarbearsience.com).

# Executive Summary

1. ホッキョクグマは、いまでも動物保護の一大成功事例です。40年前よりホッキョクグマは増えています。
2. 2010年と比べて、減少している個体群は減りました(いまは公式には1群だけ)。データ不十分なのは6群だけです(かつては9群)
3. 急激な夏の海氷減少でも、予想されたようなホッキョクグマの個体数への影響はありませんでした。海氷は2007年に20世紀半ばの水準まで減りましたが、言われていたようなホッキョクグマ壊滅は起こりませんでした。
4. 2007年以来、氷のない季節は伸びてきているのに、チュクチ海の個体群は大繁栄しています。
5. チュクチ海で夏に海氷が少ないおかげで、ホッキョクグマたちの獲物の数が十分に増えました。フイリアザラシは、主に氷のない季節にエサを探すからです。
6. ホッキョクグマは、いくつかの地域で氷の状態が変わっても適応できています。
7. 南ビューフォートの個体数は前回の調査から回復しました。
8. バレント海の個体数は、海氷面積がはるかに減っているのに、2005年から増えたようで、まちがいなく減少はしていません。
9. 2012年夏の記録的な低海氷で、南ビューフォートのホッキョクグマ個体数に被害を与えたという証拠はありません。
10. むしろホッキョクグマの個体数が増えたことで、他の生物種、特に巣を作る海鳥やアヒルに悪影響が出ています。
11. 西ハドソン湾個体数は、科学者たちがメディアに告げている話とは裏腹に、2004年以来安定しています。
12. ハドソン湾の海氷は1999年あたりから変わっていません。氷が割れる日や凍結する日は変動がきわめて激しいのですが、氷のない期間は2004年と比べて

2015 年でも伸びていません。でも 2016 年秋の凍結は、ここ数十年で最も早いものになりそうです。

13. チャーチルの「問題のあるホッキョクグマたち」は、痩せてもいないし飢えてもいません。
14. マニトバ州チャーチルは、1983 年と 2016 年に「問題のあるホッキョクグマ」が最も多かったところですが、この二つの年は凍結が遅かった年ですが、2016 年の出来事の多くは、2013 年にホッキョクグマが人間を襲ったことで警備職員たちが監視を強化したおかげのようです。
15. ホッキョクグマが海氷を最も必要とするのは春の食餌時期ですが、この時期の海氷減少はごくわずかです。
16. 先住民による狩りがクマ個体数に影響しているという証拠はありません。
17. カナダの大半では、クマにストレスをかけるような調査手法は廃止されています。
18. 2011 年以来、ホッキョクグマの共食いは報告されていません。
19. ホッキョクグマは公害の影響を受けていないようです。研究は、そうした被害が理論的に可能だと示しているだけで、実際に起こっていると示してはいません。
20. ホッキョクグマは過去の温暖期も生き延びてきました。ここから、将来の温暖期も生き延びる能力があるのは明らかです。

## 結論

- ホッキョクグマは繁栄していて、いまのところ絶滅の危険はありません。
- 十年以上もの夏の海氷減少で、何万頭ものホッキョクグマが死ぬと言われましたが、そんなことは起きませんでした。
- ホッキョクグマは、春に十分なエサが得られていれば、晩夏/初秋に海氷がなくてもよいのです。







地球温暖化政策財団 (The Global Warming Policy Foundation) は、すべての党を含む無党派シンクタンクであり、登録済み教育慈善団体です。地球温暖化についての議論の分かれる科学については多様な見方を採る一方、現在促進されている多くの政策が持つ、費用面などの影響について深く懸念しています。

主な活動は、地球温暖化政策とその経済などの含意についての分析です。狙いは、最も頑健で信頼できる経済分析と提言を行うことです。何よりも私たちは、メディア、政治化や社会に対し、この問題全般と、彼らが現在あまりに曝されることの多い誤情報について、ニュースにふさわしい形で情報提供を行うことです。

GWPFの成功の鍵は、ますます多くの政策担当者やジャーナリスト、関心ある一般市民たちから私たちが獲得してきた信頼と信用です。GWPF の資金は圧倒的に、数多くの民間個人や慈善信託基金からの自発的な寄付からのものです。完全な独立性を明確にするために、エネルギー企業やエネルギー企業に大きな利害関係を持つ寄付は受け付けません。

地球温暖化政策財団の刊行物での見解は、著者のものであり、GWPF およびその評議員、学術諮問評議会委員、理事たちのものではありません。

発行：地球温暖化政策財団 (GWPF)

GWPF についての追加情報およびこの報告書の印刷版をご希望の方は、以下までご連絡ください:

The Global Warming Policy Foundation  
55 Tufton Street, London, SW1P 3QL  
T 0207 3406038 M 07553 361717  
[www.thegwpcf.org](http://www.thegwpcf.org)



Registered in England, No 6962749

Registered with the Charity Commission, No 1131448